

<金標準、円安の恩恵を受けた高値更新は戻り売りに注意・・・>



(出所：オアシス)

ワイオミング州でカンザスシティ連銀主催の FRB 年次シンポジウムのジャクソンホール会議が開催され、パウエル FRB 議長は講演を行い「インフレ率はピークからは下がってきており、それは喜ばしい展開だが、なお高過ぎる」と指摘し「適切と判断すれば追加利上げに動く用意がある。インフレがわれわれの目標に向かって持続的に低下していると確信できるまで、政策を景気抑制的な水準に据え置く考えだ」と述べている。またラガルド ECB 総裁も講演を行い「インフレ率を中期目標の2%へと適時に戻すため、ECBが必要な限り金利を十分景気抑制的な水準に設定することを意味する」と述べるなど、米欧の金融当局者はタカ派を示す発言を行なっている。そのため金利は上昇しNY金は軟調な動きを見せたが、金標準先物は円安の恩恵を受けて高値9010円に迫る8998円まで高値を試している。ただ円安の恩恵だけであり、9010円は試す動きを見せる可能性は残るが、NY金の軟調な展開から戻り売りの値動きには注意が必要と思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDとシグナルは上昇を行ない、RCIでも短期と長期が上昇を示すなど、オシレーターは強気を示唆している様に思える。ただ日足と10日移動平均線の乖離が拡大しており、高値を試した後の揺り戻しには注意と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,235,000 円(2023 年 8 月 28 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 89,760 円(2023 年 8 月 28 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>